



礼に始まり 礼に終わる

校長 浅見 正史

体育館前の白梅、正面玄関横の紅梅の花も散り始め、桜の咲く時期を迎えようとしています。三寒四温とはよく言ったもので、まさにそんな気温の変化が冬の終わりを告げ、春がすぐそこまで来ていることを感じます。

2月の朝は、ミラノ・コルティナオリンピックでの日本勢メダル獲得のニュースで大きく盛り上がりました。オリンピックといえば、私の学生時代の先輩である柔道の山下泰裕選手が、1984年ロサンゼルスオリンピックの無差別級で金メダルを獲得された時のことが思い出されます。高校3年生の2学期始業式に金メダルを間近で拝見した時の感動は今でも鮮明です。また、大学の柔道の授業では、山下先生のご指導を直接受ける機会にも恵まれました。特に、寝技の練習で「横四方固め」をかけられた際には、全く身動きが取れなかったことを覚えています。しかし、その圧倒的な強さとは対照的に、山下先生は、私たち学生に対しても常に優しく、誠実で、丁寧にあいさつを交わして下さる先生でした。



さて、日本の武道には古くから「礼に始まり 礼に終わる」という言葉があります。この言葉は、単に始まりと終わりにお辞儀をすることを指すだけではなく、行動のすべてにおいて相手への敬意や感謝を忘れないという精神を示しています。礼儀とは、相手を思いやる心であり、「自分がされて嫌なことは相手にはせず、されて嬉しいことは相手にもする」という心配りや気遣いそのものです。形式だけにとらわれない礼儀の本質を身に付けていくことで、友人関係のトラブルやいじめなどの問題の改善にもつながるはずです。そう考えると、4月が「礼に始まり」であるとすれば、3月は「礼に終わる」時期とも言えます。この3月は、一年間お世話になった人々、そして校舎や机などの物に対しても、感謝の気持ちを言葉や態度で表すよい機会ではないでしょうか。

一年間を締めくくるこの時期、改めて「礼」の心を胸に、互いを思いやりながら、新たな年度へと向かっていきたいと思えます。生徒の皆さんが、礼節を大切にしながら次の一步を踏み出してくれることを願うとともに、皆さんのがんばりに敬意を表し、心の金メダルを送ります。今年度もありがとうございました。まさに“礼に始まり 礼に終わる”一年としましょう。



【保護者・地域の皆様へ】

令和7年度の教育評価の結果について、2月13日（金）に開催された第3回学校運営協議会で協議をしていただき、2月24日（火）の臨時学校だよりでお知らせいたしました。学校運営協議会では、東中の進路状況、来年度の生徒数と創立80周年記念事業などについて、貴重なご意見をいただきました。学校運営協議会委員の皆様、お忙しい中、ご協力をいただきありがとうございました。これらの評価結果をもとに、今後の教育活動に活かしてまいります。